

## 平成 28 年度 農政推進協議会議事の概要

日時：平成 29 年 1 月 16 日（月）午後 2 時～3 時

場所：仙台市役所本庁舎 3 階 第一応接室

### 1. 開 会

### 2. あいさつ

《伊藤会長（仙台市副市長）》

### 3. 協 議

(1) 「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」について **資料 1**

事務局（農業振興課長）資料 1 に基づき説明

伊藤委員（東北大学大学院農学研究科教授）

妥当的な中身であると感じた。ポイントとなる営農類型についても、関係団体から意見をいただいているということで現実的な姿ではないか。

5 年後の構想見直しの際に、考慮してほしいこととして、東部地域で進められているほ場整備や灌漑設備整備なども考慮して、加工野菜や業務用野菜などの産地を目指していくのであれば、水稲に依存しないモデルも今後出していただきたい。稲作に限らない、野菜を強化するというメッセージとして、検討してほしい。

庄司委員（宮城県地方振興事務所農業振興部長）

この計画は 5 年を見据えているが、東部地域のほ場整備事業などを絡めたビジョンを打ち出していただきたい。

事務局（農業振興課長）

資料 1 - 2 の 4 ページの組織経営体の営農類型 1 つ目に業務用野菜について、若干記載している。

これから、業務加工野菜を国産市場で賄っていくという方向で、国や県も動いており、市としても、組織経営体のひとつの柱として、業務用野菜を意識している。

震災以降、新しい野菜を大規模に生産することを意識してシフトしてきているので、東部地域のみならず、西部地域においても、市として推進できればという思いで記載した。

高力委員（宮城大学事業構想学部事業計画学科教授）

戦略的にどの農産物を強みとするのかが見えた方が良いのではないかと思った。仙台の農作物というブランドのイメージを持った作物はどれなのか、どう入れ込むのか、フレキシブルに考えるとよいと思う。

4ページの農家レストランの営農類型については、イメージが湧かないが、今後進めていく中で見出していただきたい。

#### 事務局（農業振興課長）

営農類型については、指標のひとつとして示している。

認定農業者制度は、農業者の方が5年後の自身の計画を作り、それを認定し、計画を達成できるよう関係機関が応援していく制度であるが、計画を作成するにあたって、営農類型が目安となる。市内でも東部と西部では生産基盤や条件も違うので、それぞれの地域の特性に応じた作物を計画の中で位置付け、改善していく。具体的な農産物については、計画作成の際にお話しをさせてもらいながら、それぞれの農業者の方に合った作物を選定している。

#### 佐藤委員（仙台市土地改良区連絡協議会会長）

面積を増やせば、新しい野菜を作ればという話があったが、どこをどう変えていけばよいのかが示されていないので、示していただきたい。

ものをつくるために土地が必要である。単純に面積を増やせば生産を増やせるわけではない。東部では、震災があったために、支援などを受けているが、今までの生活がまだなっていない。仙台市は5年の復興計画期間が過ぎたと言っているが、東部の農業はまだ5割も復旧していない。構想に年間農業所得480万円、年間労働時間2,000時間という数字が掲げられているが、今の東部は到底達していない。ほ場整備後も、土壌が荒れて今までのものが作れない。そういったものを含めてどうケアしていくのか。

#### 事務局（農林部長）

今回の基本構想は、将来の農業をどうしていくか、どう目標を定めるかを示したものである。

東部の件については、まだまだ基盤が整っていないという事実は承知をしている。まず土地を元に戻すことが前提で、平成30年度までに面整備の完了を目指している。耕しても収穫量が被災前に至らない土地が出ているのは事実であり、個別に丁寧に対応させていただく。

農業者の方への支援の在り方については、リース事業など様々な支援をさせていただいているが、今後も農業者の方々のご意見を丁寧に伺いながら、きめ細かい支援を引き続き行っていくというのが基本である。

土地の変化に応じて、大学や流通業者などにも入ってもらいながら、売れるものづくりの支援を、市場が求めているものなどを把握しながら進めていく。

生活の再建については、今後も市役所全体での対応となる。

#### 伊藤会長（仙台市副市長）

復興計画期間は5年で終わっているが、生業の復旧・復興に関しては、農業に関わらず市全体の施策の中で引き続き邁進する。

#### 佐藤委員（仙台市土地改良区連絡協議会会長）

「このぐらい復旧が進んだ」という報道があると、東部の農家は置き去りになったと思う人

が多い。そのことも忘れることなく農業の政策にも力を入れていただきたい。

#### 野口委員（みやぎ生活協同組合生活文化部産直・食の活動事務局）

農産物をどうやって販売していくのか疑問に思った。加工品の開発なども視野に入れて進めていくべきなのかと感じた。

あおぼシリーズなどもあるが世間に広がっていないものもある。商品開発なども含めて進めてほしいと思った。

#### 事務局（農政企画課長）

様々な商品ができてはいるが、生産量や保存期間などの問題をクリアしながら開発しているところである。毎年、補助金等を活用しながら、販路の拡大や安定した商品生産などをバックアップしているところである。引き続き、仙台ならではのこういった野菜を加工していくかなど、検討しながら支援していきたいと思う。

#### 伊藤会長（仙台市副市長）

今回いただいた意見を参考にして、農業関係機関との法定協議、宮城県への同意協議に進めていきたいが、よいか。

⇒全員了承

事務局にて対応を行う。

### 4. 報告

#### (1) 農業経営改善計画等の審査について 資料2

事務局（農業振興課担い手育成係長） 資料2に基づき説明

#### (2) 農業振興協議会の開催状況について 資料3

事務局（農業振興課生産振興係長） 資料3に基づき説明

#### (3) 平成27年9月関東・東北豪雨による農地等への被害への対応について 資料4

事務局（農林土木課整備係長） 資料4に基づき説明

⇒各委員から意見なし

### 5. その他

- ・「農業で住みます芸人 in 仙台」事業及び農業者支援施策の案内について、事務局（農政企画課企画調整係長）が参考資料に基づき説明

### 6. 閉会